

平成 22 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

<b>研究領域名</b>	気候系の hot spot : 熱帯と寒帯が近接するモンスーンアジアの大気海洋結合変動
<b>領域代表者</b>	中村 尚 (東京大学・大学院理学系研究科・准教授)
<b>研究期間</b>	平成 22 年度～平成 26 年度
<b>科学研究費補助金審査部会における所見</b>	<p>本研究領域は、アジアモンスーンと黒潮、親潮がもたらす熱輸送の強い影響が及ぶ北西太平洋域において、中緯度気候系の“hot spot”と称される海洋から大気への莫大な熱及び水蒸気の放出に焦点をあて、中緯度における大気海洋間の相互作用が地球全体の気候に及ぼす影響とそのメカニズムの解明を目指すものである。黒潮続流域での現場観測、地球シミュレータを用いた数値モデリング、最新の人工衛星観測データ等の解析を有機的に融合して気候研究の新しい概念の確立を目指す計画は大変意欲的であり、新しい気候学の創成が期待できる。気候系の“hot spot”という概念は日本発の研究テーマであることから、我が国主導の研究によって世界をさらにリードすべきものであり、その必要性は高い。また、気象学や海洋学分野における多くの中堅・若手研究者をうまく束ねており、分野融合による研究の促進が期待できる。本研究領域の設定によって、気候系における中緯度の役割に関する理解が格段に進展することが期待される。</p>